

鹿児島大学病院

研修医 浜田 恭輔 2016年10月

この度、出水総合医療センターを中心に1か月間、地域医療研修をさせていただきました。高尾野診療所、野田診療所での診療、上場診療所でのへき地医療、出水保健センターでの地域保健、診療所や医療センターでの夜間救急、院内での多職種研修など、非常に充実した研修で本当にあつという間でした。

この1か月間の研修では、各診療所及び院内での総合内科研修など、外来診療に携わる機会を特に多く得ることができました。これまで外来診療を経験する機会ほとんどなかったため大変貴重な経験でした。とはいえ、やはり初めての外来診療に慣れず、高齢の患者さんが抱える何らかの慢性疾患のフォローだけに終始躍起になってしまっていました。しかし、慢性疾患のフォローはしつつ、その上で拾い上げるべき所見や患者さんの言葉がないかを的確に見つけ出すという点において、先生方の並々ならぬ診療技術と熱意、そしてコメディカルの方々との協働には大変驚かされました。同時に、問診や診察の重要性、所見に基づいた臨床推論、必要な検査や患者指導など、これまで「何となく」程度にしか考えていなかった自分の姿勢を猛省するよい機会ともなりました。おかげさまで外来診療に限らず、今後自分が行っていくべき診療の型が多少なりとも形成されたように感じています。

地域保健研修の際にも、内科検診や歯科検診を担当する先生方だけでなく、保健師や臨床心理士の方々など、実際に受診者と接した多職種の方々全員で、注意が必要な子どもや家族をピックアップし対応を協議されていました。抜けがないよう幾重にも確認がなされ、1人1人見落とすことがないよう全職員で取り組んでいる姿が印象的で、このようにして地域住民への福祉、医療が成り立っているのだと実感しました。

今回の研修では患者さんの看取りにも立ち会う機会がありました。高齢者世帯、独居、老々介護など、出水に限らず高齢化が進む日本全体で深刻な問題となっていますが、そのような状況下で医療を展開するにあたり、自分たちが今後どのように患者さんや家族をフォローしていくべきなのか考えさせられることとなりました。地域福祉の取り組みについても知る機会をいただき、今後、より福祉と医療とが密な関係をもって地域に貢献すること、そのために自分たち医師も日頃からの患者背景の把握、地域連携との密な情報交換、多職種研修会への参加などを実践していく必要があると感じた次第でした。ここで得た経験を糧に、今後も日々精進していきたいと思えます。

10月で気候もよく、秋を愛で、鶴も見て、研修以外の時間も大変充実させることができました。ここ出水の地で研修できたことに感謝しつつ筆を置きます。お世話になりました皆様、本当にありがとうございました。